

議題	第4回運営推進会議
日時	2020年2月20日(木) 14:00~15:00
場所	デイサービス山風木
出席者	(順不同敬称略) 三島市介護保険課 O様 デイサービス山風木利用者様ご家族 Y様、A様、M様 デイサービス山風木センター長 渡部浩考 デイサービス山風木総括 渡部美保子 居宅介護支援事業所ふじしろ ケアマネージャー 相澤麻輝 (議事録作成者) 渡部浩考 (議事進行者) 渡部美保子
会議の詳細	
<p>● ごあいさつ (センター長 渡部浩考) ～出席者のご紹介、本会議の趣旨(目的)について～ 今回は、ご家族の方が多いのでケアマネージャーにも参加してもらって、様々なケースについての情報も提供してもらおうと思っています。</p> <p>● デイサービス山風木の運営状況 (センター長 渡部浩考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用状況の報告 <ul style="list-style-type: none"> →定員12名に対して平均10名ぐらいの利用となっています。 →年末に施設入所の方もおりご利用メンバーの変動がありました。それも大事な刺激だと考えております。 ・スタッフ体制、資格等育成に関して。 <ul style="list-style-type: none"> →関係事業所とあわせて25名おりますので協力して運営しています。 →認知症の勉強を途切れなく行うようにスタッフと一緒に頑張っています <p>● デイサービス山風木の活動 (総括マネージャー 渡部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期の行事の確認。(季節活動、敬老会) ・各種行事や季節活動 <ul style="list-style-type: none"> →活動の写真をプロジェクターにて投影 <p>総括 渡部</p> <p>山風木の利用者様の男女比は1:1です。男性が半分というのは珍しい事業所かもしれません。笑顔の良い写真もあります。男性ならではの雰囲気というものも日々学ばせていただいております。</p>	

Y 様

家ではあまり笑ったりしないので、驚きました。大事にとってあります。デイサービスで何をしたか？は全部忘れて憶えていませんが。作品などは出来るだけ見える場所に飾っておくようにしています。

M 様

広島からひ孫が来るとニコニコ笑うのですが、帰ってしまうと笑顔も減ってしまう。写真をとっておいて上手に活用するようにしています。

● 認知症のイロハ

別紙を使って、認知症の基礎講座(ミニ講座)を実施

A 様

つい言い過ぎてしまうことがありますね。本人も本当は不安なのだと思います。耳も聞こえにくくなり、味覚や嗅覚も弱くなってきています。私が見えないとすぐに呼ばれたりもします。2Fにいるなどのメモを置いたりしますが、あまり効果はないですね。

M 様

うちの主人も事前に声をかけないと私のことを探します。夜は7時過ぎに布団に入りますが、ドアを開けばなしでエアコンをつけます。私が10時頃に布団に入ると安心してドアを閉めさせてくれます。7時に布団に入るので、10時頃に目が覚めて、山風木に出かけようと準備をすることもあります。

A 様

うちもあります。「まだ外は暗いよ」と伝えると、すんなり納得してくれることが多いですが。

総括 渡部

でも、声をかけることで納得してもらえるのですね。否定や間違いを正すような表現は、感じ方によっては混乱や怒りに繋がるがありますが、上手に伝えているのですね。

Y 様

私を探すようなことはありません。歌を歌ったりもしないし、「ああ、うん」みたいな反応が多いです。10月頃から全くトイレにいかなくなってリハパンで用を済ませるような感じになってしまいました。1日に何度も交換しなければならなし、娘が対応してくれているからなんとかかなっているが、本当に心が苦しいです。排泄の片付けが続いて、悪いことを考えてしまうようなこともありました。

総括 渡部

排泄は、たった1度だけでも非常にショッキングなこととして心のダメージにもつながります。在宅ケアの限界として排泄介助の有無が関係してくるぐらい重要です。ケアマネさんの話も聞いてみましょう。

ケアマネージャー 相澤

皆さんのお話にあるような様々な困りごとは、いろいろな方からもたくさん出てきています。但し、それは全て同じということではなくて、家族構成や自宅の環境などによって違いがあります。だから、これが答えだ！というものが無いのが心苦しいのですが、永遠にその困りごとが続くのではなくて、認知症の進行とともに困りごとの内容が変わっていく。ということも特徴です。今できることを考えながらも、いろいろな支援を組み入れて対応していくしかありません。家族がまいってしまうと何も進まなくなるので、上手に生活を作って行くしかありません。

認知症の夫婦というケースもあります。自分は認知症と思っていませんし、相手(配偶者)の面倒をみるのは自分だ！と思っているので、その方への支援を組み込んでいくことが簡単にはいきません。信頼造りから、徐々に支援を付け加えていくようなことになります。

センター長

認知症は社会全体の問題だと思いますが、三島市として計画していることなどは何かありますか？

介護保険課 O様

基本的には、各地域の包括支援センターが旗振り役となります。現時点で、新しい取り組みということはありませんが、これまで行ってきた施策を継続すべく次年度予算の検討も進んでいます。

総括 渡部

家族にしか出来ないこともありますし、地域で支え合った方がよいこともあります。またデイなどの事業者が携わった方がうまく行く課題もあります。役割分担ですね。

センター長

お忙しいところありがとうございました。暖冬ということもあり過ごしやすい日が続いています。今年はインフルエンザも控えめなので、事業所全体としても元気に通ってくださっている方がほとんどです。このまま春を迎えられるといいなと考えております。

本日は、どうもありがとうございました。

次回の開催予定は2020年8月頃を予定しております。

